

中国語履修者の現状についての一考察

大 沼 正 博

先頃ちょっとしたきっかけがあって中国語を履修する学生に中国語学習に関するアンケートを行なってみた。本論文ではこのアンケートの結果をまとめて感じたことを述べたい^(注1)。日頃中国語の授業をおこなってきて感じていた予想とあまり変わらない結果もあれば、意外な結果もあった。完全な形と言えるものではないが普段から興味のあることをいくつか尋ねてみた。ここに多少とも反映されている学生の意識、実態などや、いままではあまり明確に把握していなかった事実などを、今後の中国語授業の展開に役立てることができればと考えている。このときのアンケートは対象学生を変えて二種類実施した。本論文では本学一年生の中国語履修者の一部を対象に実施したものについて検討したい。この一年生対象のアンケートの回答者は382名である。本学の学生は一年次に全学共通科目（一般教養科目）の第二外国語として、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語および学部によっては韓国朝鮮語とスペイン語を含めた中からひとつを選択して、一年間二コマの履修を課せられている。

1. 漢字について

中国語は漢字で表記される。したがって第二外国語が必修科目として課せられている場合には特に、履修外国語を選択する際に漢字が使用されているという事実によって中国語を選択する学生が多い傾向があると思われる。質問1) はこれを確かめてみようとするものである。

1) 中国語を選択したときに、漢字が使われているので学習しやすいと考えた。

A. はい	77.5%
B. いいえ	12.8%
C. どちらでもない	9.7%

回答結果は予想通りであると言えよう。これはまた中国語選択の学生の中には、漢字が共通だから何とかなるという安易な発想をしている、そしてその結果いわば消極的な学習態度に陥って行く履修者がいることを示している可能性があり、教学上のやっかいな問題の芽を含んでいるとも言える。

質問2)は、少し皮肉な言い方をすれば、こうした期待(?), 予想が、実際に中国語を学習してみたあとで当たっていたか外れていたか、を見ることが出来るものである。

2) 漢字の知識は中国語の学習に役立った。

A. はい	58.9%
B. いいえ	16.1%
C. どちらでもない	25 %

理由：

質問1)に比べて「A. はい」の割合は明らかに減少しているが、それでもまだ多くの学生が漢字の知識が役立ったと答えている。「日本語と同形同意味」、「意味が推測できる」などがその理由として挙げられている。「B. いいえ」は微増であるが、「どちらでもない」は大幅に増えている。これはひとつには日中で使用される漢字の字体の違いに原因があるようである。まず、質問3)に出てくる簡体字が問題になる。「簡体字があるからかえって難しい」、「日中で違う」、「形が違う」などという回答はそのことを言っているようである。また日中で使用する漢字の字体の細部に微妙な違いのあるものがあり、それも混乱をもたらす原因となっているようだ。授業では「できれば注意して下さい」と言うぐらいに留めているが、字体の微妙な相違に興味を示す学生がいる一方で、面倒としか思わない学生、あるいははなはだしいものは、何が何でも日本の字体で書かないと気が済

まない学生もいるようである。いまひとつは同じ漢字でも日中間で意味が異なるものがあることである。これは相違が大きい方がむしろ問題は少ないようで、微妙に異なる場合の方が混乱を来すようである。さらには日本では使わない漢字が使われる場合には、日本の漢字の知識が役に立たないというものもある。これらは「中国語は外国語である」としっかり認識した上で学習に臨めば、問題に成りようのないことに思われるが、漢字の共用にも見られるような日中間の文化的関係の深さが良くも悪くも反映している例であろう。「日中の同義異義を区別するようになった」、「漢字を多く使うようになった」、「繁体字簡体字の関係分かれば容易」という優等生的な回答もあれば、「漢字を知らないから」、「漢字自体知らず略字多い」という嘆き節や、「日中別のもの」という回答もある。いずれにしる漢字の知識が中国語の学習に役立ったと意識されていることは、中国語を選択履修してもらう際には好ましい条件を提供してくれる。

質問3) は中国の現行の字体である簡体字について尋ねた。

3) 簡体字は学びやすかった。

- | | |
|------------|-------|
| A. はい | 22.4% |
| B. いいえ | 50.4% |
| C. どちらでもない | 27.2% |

理由：

学びにくかったという答えが半数を占めている。漢字を当てにして中国語を選択履修した学生は辛い思いをしたに違いない。中国で教育の普及の便宜を図るために採用された、従来の漢字より字画を減らした簡体字であるが、日本の学生にはかえって学びにくいものと受け取られているようだ。日本で使用する字体と違うことを理由にあげているものが目立つ。同じ漢字であるはずなのにもうひとつ別のものを覚えなければならないことが面倒でもあるのだろう。ことに中国語の発音によって作られている簡体字の場合には、日本の学生には余計にとっつきにくいかも知れないが、簡体字全般について言えば漢字の画数は少なくなっているし、日本人のまったく知らない字体であるわけでもない。したがって学習者の努力が足りない点があるのではないかというのが教師としては正直な感想である。実際に5

人に1人は学びやすいと答えている。中国語を選択するとき積極的に選んだか、消去法で選んだかという学生の姿勢が、回答の違いに関係してくるのだろう。中国語は外国語であるとはっきり認識して学んでいけば、漢字の知識は有効に生かされるが、日本語と同じ漢字が使われているという安易な気持ちで中国語に接していこうとするものには、日中の漢字の相違が負担に思われ混乱ももたらしやすいのではないだろうか。

2. ピンインについて

日本語では漢字の発音を表すのにひらがな、カタカナを使って表すが、中国語ではローマ字のアルファベットを使って漢字の発音を表す。これがピンインである。ピンインを習得すればすべての漢字の発音を知ることができるし、また中国語の辞書もピンイン表記のアルファベット順に配列されているので、ピンインを知らなければ辞書の利用ができない。したがってピンインの習得は必須のものであり、中国語学習の基礎である。アルファベットを使っているので、声調を除けば、英語や日本語ローマ字などで学んだアルファベットの発音法と重なるものも多い。また類推の容易なものも多いので、学生が懸念するよりも学びやすいのではないかと考えるのであるが、彼らの受け取り方は少し違うようである。

質問4) 5) はピンインに関するものである。

4) ピンイン (アルファベット) は学びやすかった。

- | | |
|------------|-------|
| A. はい | 12.6% |
| B. いいえ | 72.9% |
| C. どちらでもない | 14.5% |

理由：

5) ピンインを学ぶときに、英語のアルファベットや発音の知識が役に立った。

- | | |
|------------|-------|
| A. はい | 30.8% |
| B. いいえ | 40.5% |
| C. どちらでもない | 28.7% |

理由：

これらの質問ではアルファベットを使っているピンインの表記法を理解できたかを聞いたかったのだが、実際に口頭で発声する発音の難しさと考えて回答しているものがあるようだった。質問の意図がもっと正確に理解されるように表現するべきだったかもしれない。中国語は漢字だからと安心していただけなのに、アルファベットの羅列を見せられて落胆している学生も結構多いのである。しかし長期間学んできた英語で習熟しているアルファベットの知識を応用すれば、意外に容易にピンインに慣れることができるのではと期待しての質問であった。質問5)では現に3割の学生が英語の知識が役立ったと答えている。「B. いいえ」が4割で、「C. どちらでもない」が約3割であるので、ほぼ半数の学生は英語学習で得たアルファベットの知識がそれなりに役立ったと考えていると見て構わないだろう。また、ピンインは学びやしくないと多くの学生が答えているが、実際には一年学習すると大部分の学生はピンインを基本的には理解できるように思われる。ピンインの習得は決して無理な要求ではないのである。これらの質問に対する学生の回答と、彼らが実際に身につけた能力とにはかなりの差があるように思われる。けれども試験の前になると、「英語は出るのですか。」と確認をしにくる学生がたまにいるのも事実である。ピンインという名称が浮かんで来ないのか、本当に英語だと考えているのかは判然としないときもある。

3. 発音について

質問6) 7) 8) 9) は発音について尋ねた。

6) 中国語の発音は学びやすかった。

A. はい	9.9%
B. いいえ	72.5%
C. どちらでもない	17.5%

理由：

7) 中国語の発音は英語の発音より学びやすかった。

- | | |
|------------|-------|
| A. はい | 8.6% |
| B. いいえ | 69.9% |
| C. どちらでもない | 21.5% |

理由：

8) 四声（声調）は学びやすかった。

- | | |
|------------|-------|
| A. はい | 29.2% |
| B. いいえ | 52.1% |
| C. どちらでもない | 18.7% |

理由：

9) 中国語の発音で難しいものを書いて下さい。（いくつ書いてもよい。）

質問6) 7) を見ると圧倒的多数の学生が中国語の発音は学びやすくない、英語の発音より学びやすくない、と答えている。これらの数字はもし英語との間で履修の選択を競った場合には非常に不利な条件になりそうである。けれども外国語の学習は困難をとまなうのが普通のことであり、そういう点から考えればこの数字は特に驚くものではないとも言えよう。教養科目としての中国語学習ではそれほど高度な発音の正確さを求めているわけではなく、また、実際に学生の到達度から見れば、基本的な発音技術は身につけていると考えてよいと思う。有気音と無気音、四声、卷舌音など中国語独特のものは、確かにとっつきにくい嫌いはあるが、それなりに習得している。ここではむしろ「英語に慣れている」、「英語はなじみある」、「英語の方がたくさん勉強している」一方で、中国語には「慣れていない」、「学習が足りない」ということの影響が大きいのではないだろうか。質問7) に「B. いいえ」と答えた理由として「英語を先に学んだから」という回答があることは示唆的である。

質問8) は質問6) 7) と比べて明らかに「A. はい」が増え、「B. いいえ」が減っている。それでも半数は「B. いいえ」と回答しているが、質問6) 7) と比べると、「B. いいえ」からおよそ20%が「A. はい」に移っていることになる。これは四声を教える課が中国語の授業の最初の課であるので、学生も教師もともに新鮮な気持ちで臨んでいる結果でもある

う。音楽的な抑揚のアクセントの練習は学生に始めての経験であるので、多くの学生は非常に強い関心を示し、その意味でも積極的な態度で授業を受けられるのであると思う。このことは、「最初にやったので覚えている」、「初期に学んだ」、「四声が楽しい」、「楽しく学べた」、「音楽みたいでおもしろい」などの回答からも窺うことができる。「覚えやすい」という感想もあるいはこういう事情を反映したものであろう。しかし、ひとつひとつの四声は覚えられても、単語や文に連なっていくとやはり難しいというのが実感のようである。そして子音字、母音字の読み方に加えて四声を覚えなければならないことは、やはりかなりの負担増になると意識されている。英語はひとつ覚えればよいけれど、中国語は二つ覚えなければならない。つまり、英語はアルファベットの綴りの読み方を覚えればよいが、中国語はさらに四声も覚えなければならない。そのうえピンインと漢字をも結びつけなければならないことは、かなりの負担に感じられることであろう。

質問9)は複数回答なのでいろいろ挙げたものがある。「全て」、「多数」というものもあるが、母音の「e」, [ü], 「er」, 卷舌音, 四声, 子音の「z, c, s」など、中国語の教員が普通に予想しているものが挙げられている。

4. 文法について

中国語の文法については、動詞と目的語の語順が英語と同じなので、英語文法に似ていると言う学生がいる。質問10) 11) 12)は文法についての質問である。

10) 中国語の文法（語法）は学びやすかった。

- | | |
|------------|-------|
| A. はい | 51.2% |
| B. いいえ | 22.3% |
| C. どちらでもない | 26.5% |

理由：

11) 中国語を学ぶのに英語の文法の知識が役に立った。

- | | |
|--------|-------|
| A. はい | 29.5% |
| B. いいえ | 45.8% |

C. どちらでもない 24.7%

理由：

12) 中国語の文法は英語の文法よりも学びやすかった。

A. はい 42.5%

B. いいえ 23.9%

C. どちらでもない 33.6%

理由：

中国語の文法は英語とは違うし、また日本語とも違うという真っ当な回答がかなりあった。一方で、「英語に似る」、「SVO 同じ」、「文の構造似ている」と英語の文法との類似を指摘して中国語の文法が理解しやすかった理由とするものが目立つ。日本語と似ているという回答も結構ある。疑問詞を使う疑問文での疑問詞の位置は日本語の場合と同じなので、そういうことを言っているのかもしれないが、漢字の類推で意味が取れることを言っている可能性もある。質問 2) の「漢字の知識は中国語の学習に役立った。」を肯定する率が高いことが、こうしたところに反映していると思われる。中国語の文法が学習しやすいと受け取られていることは、中国語の選択履修に当たって大きな奨励作用を果たすと考えられる。また、中国語が学びやすいとして、「英語より複雑でない」、「英語より分かりやすい」、「中国語が楽」、「単純」などが挙げられているが、これらは教養科目の中国語の学習内容が「基礎だから」ということが大きな理由であるかもしれない。「教科書の説明が分かりやすい」というのも中学、高校と6年間学んで相当高度な内容まで学習した英語との比較から感じられることが言われている可能性がある。そうすると、「複雑でない」、「分かりやすい」、「楽」、「単純」というのは中国語の文法の特質ではなくて、ただ単に中国語の授業で学んでいる内容が初歩で基礎の簡単なものであることを指摘しているに過ぎないことになる。中国語の学習がもっと進んだ段階でもう一度確認しなければ、信頼の置ける回答にならないだろう。

質問 13) は関連して単語の印象を尋ねている。

13) 中国語の単語は英語の単語より覚えやすかった。

A. はい 40.4%

- B. いいえ 33.6%
C. どちらでもない 26.0%

理由：

「A. はい」が意外に少ないという印象を受ける。文の解釈ならともかく、日本語と全く同じ表記のものまである単語については、もっと学びやすいのではないかと考えていたからである。「A. はい」では漢字を理由に挙げているものが圧倒的に多い。これは予想通りである。「B. いいえ」では「ピンイン、四声、漢字、意味は四重苦」という回答が偽らざる気持ちだろうか。「簡体字とピンイン両方覚えるため」と言うように、漢字で表記されはするものの、日本とは字体の異なる簡体字を覚え、さらに中国音の発音を覚えなければならないことが苦勞であるのだろう。「A. はい」の理由にも漢字を挙げ、「B. いいえ」の理由にも漢字が挙げられている。「意味の推測が容易」、「日本語で類推」と回答されていることを含めて、中国語の漢字表記にどれだけ取り組み習熟したかが、肯定と否定の分岐点になっているのだろう。

5. 学習の姿勢

次に中国語の学習、授業に臨む姿勢、態度、意欲を探るために14) から17) の四つの質問をした。

14) 発音練習ではしっかりと声を出せた。

- A. はい 44.9%
B. いいえ 21.5%
C. どちらでもない 33.6%

理由：

15) 授業の予習、復習をやっている。() に数字を入れ、予習、復習を丸で囲んでください。

- A. はい 19.5%
B. いいえ 80.5%

1 週間に () 時間 予習 復習

16) 授業以外に中国語の勉強をしている。

A. はい 8.7%

B. いいえ 91.3%

何をしていますか：

17) 中国語の辞書を持っている。

A. はい 63.5%

B. いいえ 36.5%

辞書の種類：

大学の教養の中国語では初歩から学び始めるので、しばらくの期間はピンインを使っての発音の説明になるから、質問14)の「A. はい」の回答率はやはり低いものと言わなければならない。「A. はい」の回答では「声に出すと覚える」が多く挙げられている。「頑張った」、「大声は気持ちよい」というものもあるが、「授業中はできた」という微妙な回答もある。「B. いいえ」では、「恥ずかしい」、「人前でやること苦手」という回答があり、「自信ない」、「難しく自信ない」、「発音分からない」、「発音法分からない」という回答があり、「雰囲気で」、「なんとなく」、「誰も出していない」という回答もある。「C. どちらでもない」では、「分からないと小声」、「読みが不安なものは小声」、「難しいものは出しにくい」と答えている。また、「時による」、「その時の気分」という回答もあり、「全体では出せるが、当たると小さくなる」という回答もある。次に続く質問からも分かるように、授業時間以外では中国語学習を期待できない学生が多いので、中国語の発音の習熟を初期の授業において保証することは、その後の中国語の学習の展開にきわめて重要な意味を持つものである。ここを乗り越えられない学生は次の段階以降の学習が困難になるからである。回答からは学生の資質的な消極性が伺えるが、やはりその後の学習を効率的に進めるためにも教学上の解決を図らなければならない。

質問15) 16)は、まさに惨憺たる現状をそのままに示しているようだ。残念ながら、予習を必須とする形での授業展開が不可能になっているので、何とか授業を成り立たせるために授業時間内で完結するような授業展開をしてゆくと、今度はそれが当たり前のことになってしまって、その形から

抜け出すことができなくなる。そういう悪循環に陥ってしまっているのが現状であろう。学生に無理な要求をしにくいという、教養科目の専門科目に対する遠慮もあるだろう。どの程度を無理と言うかは別として。教科書は辞書を引かずに済むように単語の意味を提示している。それに慣れた学生はますます辞書を引くことをしなくなる。基本的に辞書なしで語学の授業が成り立つ教科書になっている。中学、高校の英語の教科書もこの体裁になっているから、学生にはそういう体裁が奇妙には感じられないだろう。教師としては現状に反撃して、ときには授業が成り立たない危険を冒して、予習復習を当然の前提とする授業を作り上げるのも、一つの選択肢であるかもしれない。一方で、こうした現状は認めざるを得ないと観念して、与えられた授業時間の中で可能な限りのものを与えていこうとするのもひとつの道であろう。その中からやがて自発的に学習していくようになる学生が現れることを期待しながら。

上に述べたことから見ると質問 17) の回答は喜ばしい意味で意外であった。このアンケートの質問で予想と全く異なる回答結果が出たのはこの質問だけであった。学生には初めの授業で辞書の紹介をして購入を勧めるのだが、反応ははかばかしいものではない。教科書すら買わずに済まそうとする者がいるご時世である。英語の辞書に比べて値段が高いのに驚いて、それで終わりというのが大方の反応であるように思う。中学、高校の英語でも辞書なしで済ましてきた学生が多いのではないだろうか。おそらくほとんどの学生は辞書を持っていないと回答することをかなりの確信を持って予想していた。そういう状況なのでこの結果には素直に驚いた。そしてこれが電子辞書の普及の恩恵だと知って二度驚いた。「辞書の種類」は全員が答えている訳ではないが、回答のあった 126 人のうち電子辞書と明確に特定できるものに限っても 75 人ある。59.5%になる。ほぼ電子辞書に間違いのないと思われるものを加えればさらに高率に成る。生協などで第二外国語の入った型のものが売られていることも追い風になっているのだろう。紙の辞書が良いか電子辞書が良いかの議論はあるにしても、電子辞書の普及の及ぼす影響の大きさに驚かされる。そう言えば近頃は授業中に電子辞書を調べている学生が目につくようになった。教室へ持ってくるには

電子辞書が紙の辞書より便利なのは言うまでもない。とにかくどんな形のものであれ辞書を手にした学生が、気軽に辞書を引く習慣を身に付けてくれることを望んでいる。

6. 中国語の難易

質問 18) では中国語学習の難易を尋ねた。これはこれまでの質問の結果から総合的におよその傾向を掴むことはできるとは思うが、より明確に理解をするために単刀直入に尋ねてみた。

18) 中国語は予想していたより難しかった。

- | | |
|------------|-------|
| A. はい | 63.9% |
| B. いいえ | 14.5% |
| C. どちらでもない | 21.6% |

どういう点かを具体的に：

およそ外国語の学習は難しいものと決まっている。それにしても予想していたよりも難しいと受け取る者が多かった。これは漢字の共用に期待をかけていたことの反動が強かったと考えられる。この質問では「A. はい」と答えた者は 243 名ある。(無回答は 2 名。) その中で具体例を挙げているものを見てみると、漢字の共用に頼れなかったことに難しさの原因があったことが分かる。具体例は回答しない者、複数回答した者があり、また表現も同じではないので、すべてを明確に合算するには困難な点もあり不完全なものではあるが、主要な項目に分類して回答の多い順に列挙すると以下のようなになる。

- | | |
|-------------|------|
| 1. ピンイン | 60 名 |
| 2. 発音 | 47 名 |
| 3. 簡体字 | 20 名 |
| 4. 四声 (声調) | 17 名 |
| 5. 文法 | 16 名 |
| 6. 日中の漢字の相違 | 15 名 |
| 7. 単語 | 13 名 |

- | | |
|-------------|----|
| 8. 覚えることが多い | 8名 |
| 9. 全体的に難しい | 8名 |
| 10. 聞き取り | 6名 |

ピンインは表記法であるが発音の仕方を表記するものであるからこれも含めると、「1. ピンイン」、「2. 発音」、「4. 四声」、「10. 聞き取り」と発音、音声に関するものが合計130名になる。これは極めて当たり前の結果でもあるが、日本語とは全く違う、そして慣れてきた英語の発音とも全く違う中国語の発音に戸惑っていることが分かる。また、ピンインについては、せっかく身につけた英語のアルファベットの使い方とは異なる用法を前にして混乱している様子も浮かんでくる。「4. 簡体字」、「6. 日中の漢字の相違」からは、日本で使っている漢字がそのままでは使えない、あるいは役に立たない苛立ちが見えるようである。「7. 単語」と答えた者にも同じ苛立ちがあると思われる。「8. 覚えることが多い」には、簡体字のほかにピンインまで覚えなければならないという嘆きも入っている。「8. 全体的に難しい」は正直な指摘なのか、単なる怠惰なのか、どちらもありえると考えられる。ピンインにしても簡体字にしても、系統立って定められているものなので、それを理解すれば十分に習熟することが可能なものであり、それ程学習が困難なものとは思われない。さらには中国語の発音と簡体字の学習には、日本語の漢字の音と字体の知識が非常に役に立つのである。実際に、多くの学生は学習が進んでいくとかなりの程度理解できるようになっていく。けれども、漢字という魔物がある分だけ余計に、一般的な外国語学習の困難に過ぎないものが、日本人学生の中国語履修者にとっては、他の外国語を学ぶ場合よりもいっそうのこと、辛いものを感じられてしまう傾向があるのかもしれない。要するに、予想より難しく感じる大きな原因は、日本語の漢字の知識が直接に役立たない発音と簡体字にあることが分かる。

7. 中国語の運用力

質問 19) では中国語の運用力ではどの面を伸ばしたいという希望を持っているかを尋ねた。次いで質問 20) では、希望は希望として実生活の中で実際に必要な中国語の運用力は何であると考えているかを尋ねた。

19) 中国語を「聞く」「話す」「読む」「書く」力のうちで、どの力を一番伸ばしたいですか。

聞く	18.8%
話す	51.2%
読む	18.3%
書く	11.6%

理由：

20) 中国語を「聞く」「話す」「読む」「書く」力のうちで、あなたが実生活の中で一番必要とするのはどの力だと思いますか。

聞く	27.0%
話す	48.6%
読む	18.8%
書く	5.6%

どんなときに必要ですか：

やはり「話す」力を伸ばしたいが、質問 19) では半数を超え、質問 20) でも半数近くが必要と考えている。「会話したい」、「中国人と話したい」という回答が多く、「実践的」、「役に立つ」、「一番大事」という回答も多い。会話ができるようになりたい、そしてそれが一番役に立つことだと考えている。「聞く」を選んだ者も会話への第一歩と考えているようである。「聞けたら話せる」、「まず聞いてそのあと話す」、「聞ければ何とかなる」、「聞けなければ対応不能」などの回答がある。「テレビで中国語を聞き取る」というのはメディアに中国語が載ることが多いからであり、「中国人の話を聞き取りたい」というのはいろいろな場面で中国人と出会うことが増えているからであろう。「テレビとか街で話しているのを聞きとりたいたから」

という回答もある。「話す」では、「留学生と話す」、「中国出身の友人と話す」があり、ここでも身近なところで中国人と接触する機会が増えていることが分かる。「読む」では、外国語の基礎力と考えている者や、インターネット、本、文書、文章を読むことが挙げられている。「ニュースを読む」、「中国メディアが気になる」という中国への関心を満たす手段とするものがあるが、「一番機会が多い」とするものや、「中国に行った時、だまされたくないから」というちょっと変わった回答もあり、「中国に行った時に、一人でもなんとかかなりそうだから」というものもある。

中国語を履修する大部分の学生は話せるようになりたいという希望を述べるが、日本での現在の実生活の中では「話す」機会はそれ程なく、一番多いのは「読む」機会、次いで「聞く」機会が多いと考えられる。インターネット、ホームページ、新聞、雑誌、書籍などは「読む」ことだし、映画、音楽、テレビなどは「聞く」ことである。「話す」相手の中国人は普通には見つけるのに苦労するのではないか。むしろ「書く」は積極性さえあれば自分からやり始めることも可能であろう。質問 20) はそのことに気付かせようと意図したのだが、回答の結果は質問 19) に比べて「聞く」がいくらか増え、「書く」がいくらか減っただけで、その他はほぼ同じ回答率になっている。質問文の「必要とするのは」を「使用するのは」と書けば、こちらの意図をもっと正確に伝えることができたかもしれないが、現在の生活ではなく、将来必要とすると受け取られた面もあるようだ。「話す」ことばかりに関心を向けようとする学生の目を、他の運用力にも向けさせようという下心もあったのだが、その目論見は外れたようだ。

質問 20) ではそれぞれの力がどんなときに必要と考えているのかを尋ねてみた。「聞く」力は会話の基礎的能力と考えられていて、ニュース、テレビ、映画などを見たり聞いたり、中国人から話されたときに必要と考えている。面白いのは「中国人に道を聞かれたとき」、「困っている中国人のため」とか、「困っている人を助けられるから」といった随分と人情味に富んだ回答もある。「読む」ではインターネット、旅行、文書などが挙げられているが、「商品の注意書き」とか「中国製品を買ったとき」という回答もあり、「看板」や「駅の標識を読む」というものもある。「中国へ

なかなか行かないから」というのも正直な気持ちだろう。

8. 中国語の授業について

質問 21) では、学生は中国語の授業を行うクラスの規模はどの程度が適正と考えているかを尋ねた。質問 22) では、学生の授業への参加意欲、積極性がどの程度のものであるのかを探ってみた。質問 23) では、学生がもっとも印象深いとするものを確かめて、彼らの興味のありかを探る手掛かりにしようとした。

21) 中国語の授業は 1 クラス何人位が適当だと思いますか。

() 人

22) 一回の授業で最低一度は当てて欲しい。

A. はい 16.3%

B. いいえ 51.3%

C. どちらでもない 32.4%

理由：

23) 中国語の授業を受けて一番印象に残っていることは何ですか。

質問 21) は自由記述にしたためにまとめにくくなってしまった。しかし回答なしの 11 名を含めた全 382 名の回答の中で 30 人を適当とする回答が 115 名で圧倒的な首位になった。切のよい 10 人区切りでの回答数のみを並べると以下のようなになる。

10 人 20 名 5.2%

20 人 83 名 21.7%

30 人 115 名 30.1%

40 人 41 名 10.7%

50 人 7 名 1.8%

60 人 1 名 0.3%

5 人区切りや、何人から何人というように人数の幅を持たせた回答も多かったが、それらのうちで 20 人から 30 人の間に入る回答は合わせて 37 名になる。30 人から 40 人の間に入る回答は合わせて 16 名になる。した

がって学生が適当と考えるクラスの規模は20名から30名の間にあると判断するのが妥当であると思われる。20人, 30人, 20人から30人の間を合わせると235名で61.5%を占める。これに20人よりも少ない人数の回答を含めると合計は284名で74.3%に達する。これが30人以下のクラス規模が適当とした回答数である。同じように40人以下とする回答の合計は341名で89.3%である。ちなみに15人を適当とする回答は19名ある。これらの数字に比べると本学の中国語クラスはどう見ても学生数過多である。日頃この過大クラスが教学上負の影響をもたらす一因になっていると感じているのだが、学生の側も同じように感じているに違いない。語学クラスは30人以下が望ましいとは教師と学生の一致した見方である。興味深いものに、「15人。本当にうまくなりたい場合。どうしても良い場合は多ければ多いほど経費削減!」、「(人数回答なし) レベルごとに分けられているなら何人でも」という書き込みがあり、それなりにかなり本質を突いた問題提起とも受け取れる。そうしてみると、300人とか100人という回答も単純な悪ふざけと無視はできないとも思えてくるのである。

質問22)は、普段の授業での多くの学生に見られる、受身的な受講態度からおおよそ推測できる結果になったようだ。残念なことだが授業への参加に積極的でない学生が半数を占めている。当然のことながら「A. はい」では、「緊張感出る」、「集中できる」という回答や、「分からなければ教えてもらえる」、「自分の理解を確認できる」、「話せるようになりたい」という殊勝な意見が挙げられている。「B. いいえ」では、「答えられないから」、「分からないから」、「難しい」などとともに、「緊張して頭がまわらない」、「緊張する」、「そこに気を取られて集中できない」、という答えや、「人前の話し苦手」、「当たりたくない」、「(発音) 自信ない」といったものや、「面倒」、「うざいから」、「授業長くなる」までである。「C. どちらでもない」を選んだ者も、必ずしもこの質問に無関心なだけというわけではないようである。「自信ないとき(当てて) 欲しくない」、「どちらでも構わない」、「先生が決めること」、「嫌だがないとダラける」などの回答があるが、そのほかにおもしろいものを挙げてみる。「自分の発音が正しいかみて欲しいから当てて欲しい。聞いてなかったりする人がいると時間が

たつから当てて欲しくない。」「当てなくてもやる気があればやる」, 「勉強は個人ですもの」, 「真剣にやれば当てられる必要ない」, 「当てるとか当てないとか, そんなレベルの授業を大学で考えたくない」, 「分かっている必要なく毎回発音している」, 「全員当てると進度遅れる」など。随分と真っ当な意見が挙げられていて, 授業担当者として深刻に考えざるを得ないことばかりである。

授業で当てるのは学生に緊張感を保たせる手段であるのは勿論であるが, 同時に, 学生に授業への積極的な参加を奨励し, また, 教授内容の理解度を確認するためである。質問 19) で見たように, 学生が「話す」力を一番重視している一方で, この質問では奇しくもまったく同じ割合の学生が, 授業への積極的な参加に尻込みを見せる状況は, 非常に頭の痛いことである。このような消極性は, 学生の希望する「話す」力, 「聞く」力の習得, ひいては会話能力の習得の際に, 大きな障壁となっている。そのことをいかに自覚させるかは非常に重要な課題である。その自覚なしに「喋れない」と嘆かれても, こちらは手の打ちようがない。

質問 23) について。「発音が難しい」というのを含めて, 初めて触れた中国語の発音の印象が強いようだ。声調や特殊な母音, ピンインなどは新鮮で驚きだったのだろう。一年生の授業の初めの期間はピンインによる発音練習を重ねるので, 大きな声を出す授業も印象的なのではないだろうか。「難しい」というのは, 日本語の漢字の知識だけに頼っての中国語学習は危ういと気付いたこともあるのではないだろうか。「日本と漢字は同じなのに, 意味が違っていたこと。」と書いた者がいる。固有名詞の発音も挙げられているが, 漢字の発音が異なることも印象的だったのだろう。先生に関わることを挙げる者がいるが, その中には, 「中国人の先生が教えてくれる」, 「中国人の先生の中国語聞けた」という回答があって, ネイティブ教員が与える刺激はすこぶる鮮明なようだ。また, 授業で紹介された映像資料を答えている者も多い。

9. 学力の向上

次の二つの質問では、中国語の学力向上と会話の上達のための方法を尋ねた。

24) あなたの中国語の学力を高めるためには何をすればよいと思いますか。

25) 日本人は外国語会話が苦手と言われますが、どうすれば上達すると思いますか。

質問 24) は自由記述なのでまとめにくいですが、いろいろな形での学習を挙げているものが多い。率直に「勉強」の必要をいうものだけでも 60 人ある。その他予習、復習、自習など勉強が必要なことはとくに理解されている。音読、暗記、単語、基礎、文法など具体的な事項を挙げた答えもある。しかし留学は 14 人、中国へ行くは 20 人、中国人と話すは 10 人で、会話、実用語学志向が強いはずの学生たちにしては極めて少ないように思われる。もっともまだ一年生なので、その前にしっかり勉強して力を付けてからそういうことを考えるという、順を追った発想法なのかもしれない。「文化を学ぶ」、「中国に興味を持つ」、「中国を知り好きになる」とか、「継続」、「やる気、好きになる」という回答もある。「まじめに授業を受けつつける」という、教員には本当に喜ばしい指摘もある。

質問 25) も自由記入で回答がまちまちなのでまとめることが非常に難しいが、おおよその傾向を見てみる。まず「話す」という回答が目立つ。これは学習しているときに声を出して中国語を言うことでもあり、中国人などに対しても積極的に話していくことも含んでいると思われる。次に、「恥ずかしがらない」、「自信を持つ」、「積極的になる」、「努力」など精神面を強調する回答が目立つ。その他まとまった回答は「中国へ行く」、「留学」、「中国人と接する」、「勉強」、「小さい時からやる」、「慣れる」、「日常的に使う」などである。比較的常識的な事柄が挙げられているが、積極性を持って恥ずかしがらないでということの必要性が自覚されていること、また、いろいろな形での学習が必須であることが自覚されているこ

とが分かる。

10. 中国語を学習してきて

最後の三つの質問は、学生が中国語を一年間学んできてどのようなことを考えているのかを知ろうとしたものである。これらは全て自由記述式の質問なので、回答結果を簡潔にまとめることが困難であるが、大筋の傾向を検討してみよう。

26) 中国語を学習して良かったことは何ですか。

27) 中国語の知識をどんなことに使いたいですか。

28) 中国語の授業を受け、中国語の学習を続けてきて、何か考えたこと、気がついたこと、もっと知りたいこと、疑問に思ったことなどがありますか。また、中国について何か考えたこと、気がついたこと、もっと知りたいこと、疑問に思ったことがありますか。自由に書いて下さい。

質問 26) では 60 人が「ない」と答えているのがっかりする。こうした不満感あるいは無関心を減らす努力と方法の開発が必要であろう。「ない」と回答する理由をさらに明確に見極めなければならないが、こうした学生の存在は授業運営上のマイナス要因になることは間違いない。これより少し多い回答は中国語が少しはできるようになったと喜ぶものである。知識が身についたというものも語学のことと解釈して、さらに「自分の名前を中国語で言える」、「挨拶、自己紹介できる」、「食品袋の中国語読める」、「バイト先の中国人の話が少し分かる」などと書かれたものも中国語学習の成果として加えると 100 人近くになる。こういう回答を見ると中国語を教えて良かったと安堵感を覚える。「中国に興味、関心を持った」、「中国を知った」、「中国の文化を知った」という答えもあるが、中国語を学習して良かったと感じる場面は上にも少し紹介したがもっと具体的なものである。「街で中国語読めた」、「看板の文字読める」、「字幕少し分かる」、「インターネットを見られる」、「CM、映画が少し聞き取れる」、「中国人に『你好』でコミュニケーションした」、「電車のアナウンス分かる」、「中国

人と話せた」,「街で中国人の会話分かりおもしろい」,「台湾料理屋で中国人と話した」というようなことが,学生のさらなる中国語学習を鼓舞してくれることになる嬉しい。「中国人に親しみ」,「中国が身近に」という回答も励みにして中国語教育に努めたい。

質問 27) では,「なし」,「分からない」が 35 人いる。これは無関心ばかりではなくて,実際にまだ使い道が分からない者もいるのであろう。「基礎知識では使い道ない」という回答は正しいであろうから。圧倒的に多い回答は「旅行」で,68 人ある。これに「中国で」というものを加えると 100 人を超える者が中国へ行って使うと答えている。ほかには会話,コミュニケーション,交流というものや仕事がまとまった回答である。中国語を読む,インターネット,映画などもある。その他雑多でまとめられない。「中国人の反日に対抗する時」という回答も交流を求めていることになるのだろうか。「中国に旅行に行った時に,また,中国の友人と話す時に(今は日本語です)」という回答からは身近に使える場があることが分かる。「異国の友人を作るために使いたい」という回答が広く共感されるのではないか。

質問 28) は最後の質問であるので時間の関係もあるのか回答数が少なく,さらに特にないという回答もある。学年末の試験に関するものは除いて,中国語そのものについては,「難しい」,「会話できるようになりたい」,「もっと深く学びたい」という内容が多い。また,中国の社会,歴史,文化や中国人の性格などをもっと知り,理解したいというものや,中国人をどうも理解できないというものもある。目に付いたものを以下に列挙して見る。「中国語も知りたいが文化をもっと知りたい」,「真剣に受けると結構楽しい,これからも勉強したい」,「中国の学生は国際交流や文化に深い考えを持つ」,「ピンインを覚える負担を単語を覚えることに使いたい」,「簡体字は速記に役立つ。似た発音で異義多く難しい」,「日本は中国文化の影響強く受けているから中国語学ぶのは良いこと」,「中国があまり好きでない,でも中国語は楽しい」,「中国理解のきっかけにしたい」,「『読む』,『書く』はできそう,『聞く』,『話す』は苦勞する」,「日中仲いいのか悪いのか謎」,「中国は発展し輸入品多いので友好関係保って欲しい」,「同じよ

うな発音が多く聞き取りにくい」,「中国の内面, 日常生活などを知りたい」などである。

以上アンケートの結果を順を追って検討してきた。日本語の漢字の知識が中国語学習者の学習前の予想ほどではなくても, やはり中国語学習に役立つこと, ピンイン, 発音, 簡体字は難しいと受け取られていることなど, 授業を担当していて理解していたとおりの結果がある一方で, 辞書の所有率など意外な結果も見られた。中国の社会, 文化, 歴史, 現状などへの関心, 興味は予想していたよりも強いように思った。授業のクラスの適正規模については学生の認識とほぼ一致していた。本論文では全体を表面的に雑駁に検討することに終始してしまった。例えば典型的な一人が全体の質問にどう答えているかを分析してみれば, 興味ある結果が出るかもしれないが, 今回はそういうことはできなかった。いずれにしても今回の検討の結果をこれからの中国語の授業運営に多少なりとも役立てられるように努めたい。

注

- (1) この論文で検討したアンケートは本学の中国語を履修する一年生のうちの九クラスで実施した。アンケートの実施に当たっては対象の学生と授業担当の先生方の協力を得た。いちいちお名前を記すことはしないがこの場を借りてお礼を申し上げます。実施時期は2006年12月である。このアンケートの全体の内容を文末に付す。なお, 本文中ではアンケートに記入された意見を引用符付で紹介しているが, 表現は整理してあり必ずしもアンケートに書かれた表現そのままではない。

(受理日 平成20年1月23日)

中国語学習者アンケート

大学で受講したすべての中国語の授業を対象にして答えて下さい。

選択肢のある質問は該当する記号をまるで囲み, 理由, 具体例などを書いて下さい。

- 1) 中国語を選択したときに, 漢字が使われているので学習しやすいと考えた。
A. はい B. いいえ C. どちらでもない
- 2) 漢字の知識は中国語の学習に役立った。
A. はい B. いいえ C. どちらでもない
理由:
- 3) 簡体字は学びやすかった。
A. はい B. いいえ C. どちらでもない
理由:
- 4) ピンイン (アルファベット) は学びやすかった。
A. はい B. いいえ C. どちらでもない
理由:
- 5) ピンインを学ぶときに, 英語のアルファベットや発音の知識が役に立った。
A. はい B. いいえ C. どちらでもない
理由:
- 6) 中国語の発音は学びやすかった。
A. はい B. いいえ C. どちらでもない
理由:
- 7) 中国語の発音は英語の発音より学びやすかった。
A. はい B. いいえ C. どちらでもない
理由:
- 8) 四声 (声調) は学びやすかった。
A. はい B. いいえ C. どちらでもない
理由:
- 9) 中国語の発音で難しいものを書いて下さい。(いくつ書いてもよい。)
- 10) 中国語の文法 (語法) は学びやすかった。
A. はい B. いいえ C. どちらでもない
理由:
- 11) 中国語を学ぶのに英語の文法の知識が役に立った。
A. はい B. いいえ C. どちらでもない
理由:

- 12) 中国語の文法は英語の文法よりも学びやすかった。
 A. はい B. いいえ C. どちらでもない
 理由：
- 13) 中国語の単語は英語の単語より覚えやすかった。
 A. はい B. いいえ C. どちらでもない
 理由：
- 14) 発音練習ではしっかりと声を出せた。
 A. はい B. いいえ C. どちらでもない
 理由：
- 15) 授業の予習，復習をやっている。() に数字を入れ，予習，復習を丸で囲んでください
 A. はい B. いいえ
 1週間に () 時間 予習 復習
- 16) 授業以外に中国語の勉強をしている。
 A. はい B. いいえ
 何をしていますか：
- 17) 中国語の辞書を持っている。
 A. はい B. いいえ
 辞書の種類：
 (裏に続きます)
- 18) 中国語は予想していたより難しかった。
 A. はい B. いいえ C. どちらでもない
 どういう点かを具体的に：
- 19) 中国語を「聞く」「話す」「読む」「書く」力のうちで，どの力を一番伸ばしたいですか。
 聞く 話す 読む 書く
 理由：
- 20) 中国語を「聞く」「話す」「読む」「書く」力のうちで，あなたが実際の生活の中で一番必要とするのはどの力だと思いますか。
 聞く 話す 読む 書く
 どんなときに必要ですか：
- 21) 中国語の授業は1クラス何人位が適当だと思いますか。
 () 人
- 22) 一回の授業で最低一度は当てて欲しい。
 A. はい B. いいえ C. どちらでもない
 理由：

- 23) 中国語の授業を受けて一番印象に残っていることは何ですか。
- 24) あなたの中国語の学力を高めるためには何をすればよいと思いますか。
- 25) 日本人は外国語会話が苦手と言われますが、どうすれば上達すると思いますか。
- 26) 中国語を学習して良かったことは何ですか。
- 27) 中国語の知識をどんなことに使いたいですか。
- 28) 中国語の授業を受け、中国語の学習を続けてきて、何か考えたこと、気がついたこと、もっと知りたいこと、疑問に思ったことなどがありますか。また、中国について何か考えたこと、気がついたこと、もっと知りたいこと、疑問に思ったことがありますか。自由に書いて下さい。
(ご協力ありがとうございました。)

学生にアンケートを実施したときに配布したアンケート用紙では、質問6)以降最後の質問28)までの番号が全て誤植であった。ここに採録するに当たり番号を訂正してある。